

担当者	九州医療科学大学 学長 池ノ上 克(前宮崎大学学長)
題目	「命を紡ぐ、知を繋ぐ ― 半世紀の医療実践から描く、人間と社会の未来地図」
学期	2026 Q1(4月15日水曜日、4月22日水曜日、5月1日※金曜日、5月13日水曜日、5月20日水曜日、5月27日水曜日、6月3日水曜日、6月10日水曜日) ※宮崎大学の授業日程に合わせて第3回の5月1日は金曜日に開催いたします。
授業形式	対面とオンライン(Zoom)及び後日動画の視聴可能
科目の概要	
<p>私の56年に及ぶ医師人生は、医療の最前線から組織のリーダーまで多岐にわたります。本講義では、その経験に基づき医療の原点と未来について語ります。</p> <p>前半では、日本初の五つ子医療のプロジェクトや宮崎の偉人・高木兼寛、そして地域の救急医療体制の整備など、先人たちの「連携と絆」が築き上げた歴史を振り返ります。これらは単なる過去ではなく、今を生きる私たちの指針にも通じるものです。</p> <p>後半では、医療安全や産科医療補償制度、臨床研究の倫理といった社会のシステム論に加え、専門職育成における教育と現場との間に見えるギャップという課題にも切り込んでみたいと思います。地域に根ざした実践から組織マネジメントまで、多角的な視点から「命を守るインフラ」としての医療のあり方をもう一度考えて、受講者の皆様と一緒に地域貢献の道を探求したいと思います。</p>	
学習目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域医療の歴史と「社会インフラ」としての価値を再発見する 2. 医療の「不確実性」と「倫理」に対する多角的な視点を養う 3. 長期的なキャリア視点と次世代育成のリーダーシップを学ぶ 	
授業計画	
<p>1回目(4月15日水曜日)．日本初の五つ子医療から学ぶこと 日本で初めて行われた五つ子医療において、プロジェクトチームがどのような判断を重ね、現場で対応してきたのかを振り返ります。また、この経験がその後の周産期医療の発展にどのように貢献したのかを考えます。</p> <p>2回目(4月22日水曜日)．高木兼寛の世界 宮崎県高岡町が生んだ偉人・高木兼寛の人物像と歴史を、宮崎県民の視点から分かりやすく学びます。</p> <p>3回目(5月1日※金曜日)．宮崎県の周産期医療改善の取り組み 全国的に厳しい状況にあった宮崎県の周産期医療が、どのような仕組みと努力によって改善されてきたのかを紹介し、その経験を地域の力としてどう生かすかを考えます。</p> <p>4回目(5月13日水曜日)．宮崎県の救命救急センターとドクターヘリ ―「命を守るインフラ」として― 宮崎県における近代的な救急医療体制の整備の歩みと、それを支えてきた人々の連携や絆について学びます。</p> <p>5回目(5月20日水曜日)．日本の医療安全と産科医療補償制度 大野病院事件を例に、医療の不確実性や医療安全の考え方を整理し、脳性麻痺の発症を減らすための制度や取り組みについて考察します。</p> <p>6回目(5月27日水曜日)．医学研究と地域貢献 臨床医学研究の重要性とともに、時代とともに変化してきた研究倫理の考え方を、地域との関わりの中で学びます。</p> <p>7回目(6月3日水曜日)．多職種にわたる医療専門職の育成と現場ニーズのギャップ 医療・福祉分野を目指す若者たちの学習現場を通して、専門職教育と実際の医療現場との間にある課題について考えます。</p> <p>8回目(6月10日水曜日)．教授・医学部長・病院長・学長として見えていた世界 医師として56年間歩んできた道のりを振り返り、一般臨床医から始まった経験の中で、その時々に見えていたのかを振り返ります。</p> <p>※宮崎大学の授業日程に合わせて第3回の5月1日は金曜日に開催いたします。</p>	
主な対象者	高校生以上の学生、社会人
テキスト	
参考書・資料	
キーワード	
備考	